

はじめてみませんか？

# 農福連携の すすめ

農福連携とは農業と福祉が連携し、  
農業経営の発展とともに障害者の農業分野での活躍を通じて  
生きがい等を創出し、社会参画を促す取組です。

「収穫の繁忙期や袋入れ等の出荷作業に人手が足りない」

「日々の農作業や栽培管理に追われて、販路開拓など農業経営を考える余裕がない」

…このような農家の課題を解決する手段として、農福連携の取り組みが広がっています。

## 農業サイドの 課題

- 繁忙期に人手が足りない
- 高齢化が進み担い手が見  
つからない
- 草刈り等日々の農作業に  
追われている
- 小ロットの委託加工先が  
ない

…etc.



## 農福連携マッチング

課題を解決

課題を解決



農作業の受委託等  
(農福連携の取組)

## 福祉サイドの 課題

- 障害者雇用や就労の  
場が不足している
- 工賃収入が少ない
- 意欲のある人が活躍で  
きる場を増やしたい
- 障害者の自立と社会参  
加が求められている

…etc.



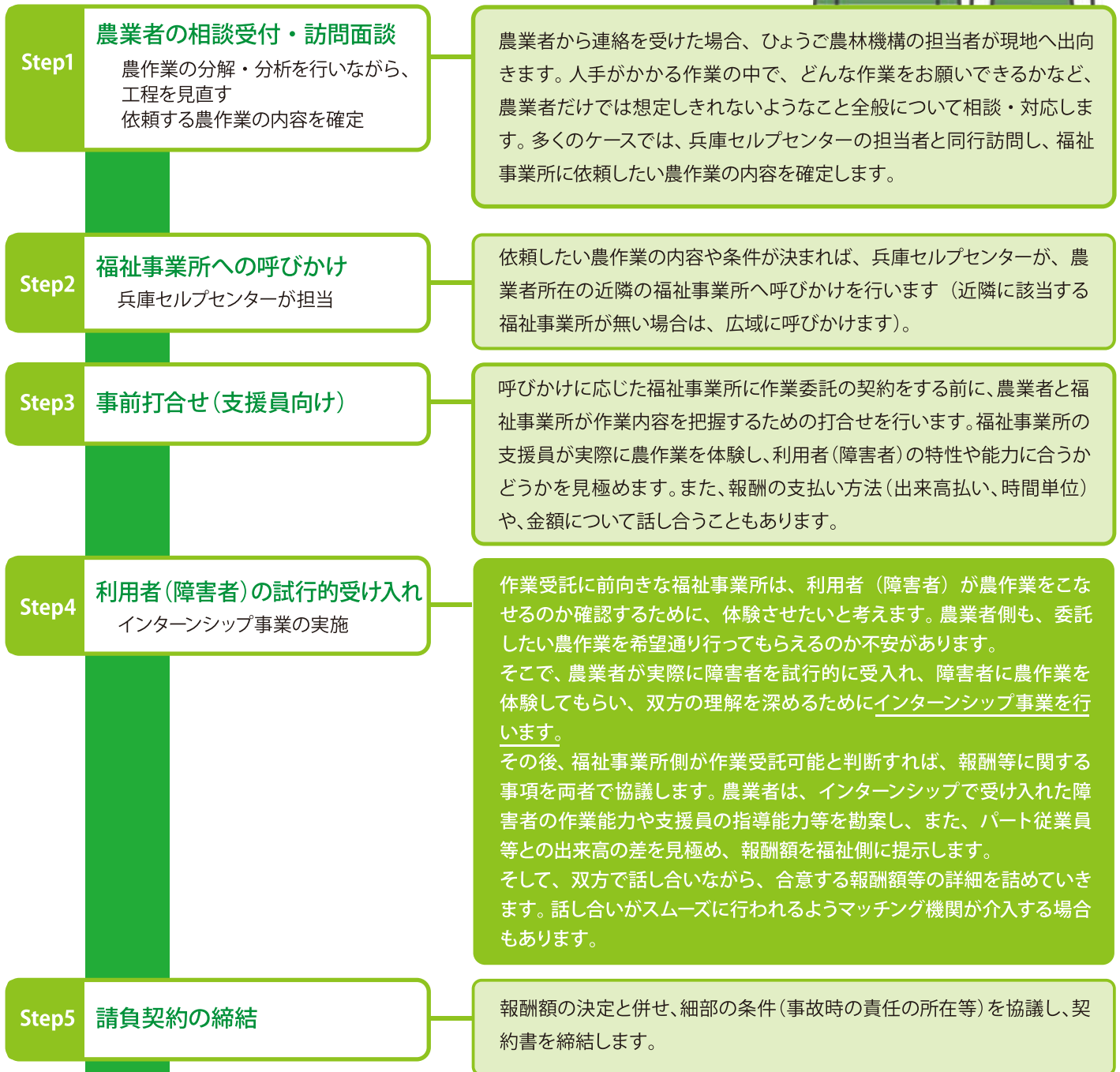
兵庫県では、農業サイドの相談窓口を「公益社団法人ひょうご農林機構」に、福祉サイドの相談窓口を「NPO法人兵庫セルフセンター」に設置。両者が連携して農業経営体と福祉事業所のマッチングを支援しています。本パンフレットでは、農業・福祉の双方が比較的取り組みやすい「作業受委託型(※)」の事例を中心に取り上げ、農福連携マッチングの進め方について紹介しています。農作業の課題を農福連携で解決してみませんか。

(※) 農業者と福祉事業所(障害者就労施設)が農作業や農産物の加工について請負または委託契約を結び、障害のある方に農作業等を手伝ってもらうものです。契約内容は期間や作業時間、作業内容を限定することも可能。また、作業時には障害者をよく知る福祉事業所の職員(支援員)が責任を持って指導し、作業を遂行してくれます。

# 「農福連携」マッチングの流れ



「ひょうご農林機構」では、農業者の皆さんの課題やニーズに応えるため、「兵庫セルフセンター」と連携して農福連携を推進しています。



※Step1の連絡をいただいてから、約2か月弱かかるケースもあります。

**ワンポイントアドバイス**

まずは、委託したい作業をはっきりさせましょう。農業には品目や時期によってさまざまな作業があります。お願いできる作業は何かを考えておくと話が早く進みます。

- 作業期間はどのくらい?(何週間?何カ月?)
- 作業量はどれだけ?(健常者だと何人相当?)
- 作業には何が必要?(道具は?マニュアルは?)
- トイレや休憩などは?(自宅を活用?)
- 作業料金は?(出来高払い?時間単位?)

## 農福連携 委託農作業事例

作業内容	作業詳細・品目	農業者	作業時期
播種・定植	トウモロコシの苗の補植	加古川市の営農組合	4月～5月初旬
	ネギの植え付け	西播磨の農業者	春まき7月 秋まき4月
	育苗箱づくり	丹波篠山市の農業者	4月中
	花苗の植え付け	三木市の農業者	年間を通して
管理	畦畔の草刈り（水稻ほ場）	丹波篠山市の農業者	5月～8月の間に、3回程度
	畝・谷の草刈り（トマト畑・黒枝豆ほ場）	神戸市の農業者	8月～10月
	ハウス内除草	神戸市の農業者	収穫後、都度
	収穫終了後の片づけ	神戸市の農業者	収穫後、都度
	いちご収穫体験ハウス内の清掃	神戸市北区の農業者	12月～5月
	トンネルの支柱の設置	西播磨の農業者	2月～4月
	カイガラムシの駆除	姫路市の農業者	4月～7月
	電気柵の撤去	姫路市の農業者	10月～12月
	加工用トマト収穫	神戸市の農業者	8月中
収穫・出荷向け調整	トマトの下葉2枚の摘葉及び摘葉残渣の片づけ	JAの子会社	12月～5月
	トマトの収穫	JAの子会社	11月～7月
	トマトの栽培管理及びパック詰め	淡路の農業者	6月～9月
	黒枝豆の収穫・運搬	丹波篠山市の農業者	10月
	黒枝豆の選別	丹波篠山市の農業者	10月
	ジャガイモの収穫・袋入れ	加古川市の営農組合	5月
	トウモロコシの収穫	加古川市の営農組合	7月～8月
	キャベツ畑での雑草引き	加古川市の営農組合	10月
	サツマイモ袋入れ	西播磨の農業者	8月～12月
	ネギの収穫・袋入れ	西播磨の農業者	春まき12月～2月
	白ネギの結束・袋詰め	西播磨の農業者	春まき12月～2月
	青ネギの外皮むき	北播磨の農業者	春まき12月～2月
	ニンニクの皮むき	北播磨の農業者	5月中旬～6月末
	カブの袋入れ	明石市の農業者	12月～2月
	トウガラシの収穫・袋入れ	神戸市の農業者	7月～8月
	ホウレンソウの根切り及び下葉取り	姫路市の農業者	12月～5月
	ホウレンソウの収穫	神戸市西区の農業者	12月～5月
加工	麦わらストローの加工	JA	8月

### ワンポイントアドバイス



農林水産省では、近畿地域をはじめ全国の農福連携の取組事例集を公表しています。豊富な事例がご覧になれますので、ぜひチェックしてみてください。

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/noufuku/jirei.html>



# 神戸岩岡農産

神戸市西区

委託先：就労継続支援B型事業所

主な作業内容  
白ネギの収穫・裁断・皮むき・計量・袋入れ



## 作業工程の一つ一つを誰にでも分かりやすく工夫 効率を上げて量をこなせば利用者の所得アップに

代表の淡野雄貴さんは、「兵庫楽農生活センター」が新規就農者のために行う「就農コース」研修を経て、神戸市西区岩岡町の農地を借り受け、2020年に就農しました。下仁田系のブランドネギ「岩岡ねぎ」の産地でもあることから、白ネギを中心にジャガイモなどを2カ所のほ場で約2ha栽培しています。

定植から収穫・出荷まで、ほぼ1人で作業することに限界を感じていた淡野さんは、兵庫県・ひょうご農林機構主催の「農福連携研修会」に参加し、農福連携について学

んだのち、ひょうご農林機構に相談しながら実践しました。2023年に明石市にあるB型事業所と1日インターンシップを実施。支援員と作業工程の内容を確認したうえで委託契約を結びました。

支援員と相談しながら、ネギの葉の締りが悪い例を大きく写真で掲示したり、音声が出る計量器を使ってサイズ分けするなど、分かりやすい作業にすることで収穫後の効率もアップ。今後はネギ以外にもジャガイモの収穫・袋詰めや新たな作物の提案を事業所に行う予定です。



### 作業上の工夫点や報酬について

ネギの収穫・裁断・皮むき・計量・袋入れの工程ごとに誰にでも分かりやすく作業できる工夫をしています。肥料袋にネギを数本包んでから出荷袋に入れて肥料袋を抜き取ると袋入れの効率が良いなど、利用者の個性を生かしてチームワークを高めています。

報酬は、福祉事業所の配慮もあり、仕上げた出荷商品1袋あたりの出来高制に。効率良く量をこなせば所得アップにつながるようにしています。



代表の淡野雄貴さん

(2024年2月取材)

# 藤原ファーム

神戸市西区

委託先：就労継続支援B型事業所

主な作業内容  
キャベツ畑の除草



## インターンシップで実際にできることを確認 真面目に取り組む姿を見て安心して任せられました

代表の藤原秀旨さんは、キャベツ専業農家の父から20代で農家を引き継ぎ、年々規模を拡大。現在では約15haのほ場で、キャベツを主体にブロッコリー、水稻などを栽培しています。冬場に収穫期となるキャベツは7月に種から苗を作り、8月盆明け頃に定植しますが、猛暑の影響もあり水不足や雑草など、土の状態には特に気を遣っています。

最近では農作業を手伝ってもらうパートさんが集まりにくくなっていることと、農福連携を始めた神戸岩岡農産の淡野さんの取り

組みを知り、まずは畑の除草を頼めないかと、1日インターンシップを行いました。草刈り用の「三角ホー」を使って実演しながら説明しましたが、実際に体験してもらうとなかなかうまくいかないことが判明。結果、手作業での除草作業を委託することに。「みんなが一生懸命に作業する姿と、取った雑草もきれいに片付けられた畑を見て感動しました」と藤原さん。今後は収穫したブロッコリーの袋詰めなど、できることから委託内容をさらに増やしていきたいと考えています。



### 作業上の工夫点や報酬について

インターンシップで作業を実際に体験してもらうことにより、できること・できないことが明確になりました。支援員の指示のもと、全員が真面目に作業に取り組んでくれるので安心して任せられます。今後は人手が不足している耕作地周辺の溝掃除なども頼めるのではないかと考えています。除草作業の報酬は、10aあたりの単価を設定して出来高払いとしています。



代表の藤原秀旨さん

(2024年2月取材)

# 榎本ファーム

明石市

委託先：就労継続支援B型事業所

主な作業内容  
収穫野菜の袋詰め



## 農福連携を視野に入れて本格就農 障害者の社会参加に貢献したい

代表の榎本浩久さんは、20代で鬱(うつ)を発症し、周囲の多くの人の助けで社会復帰しました。父親が野菜作りをしていたこともあり、2022年から本格的に就農。「自分がもらった恩を今度は誰かに返したい」、そんな“恩送り”の思いから、障害者が社会参加できる農福連携を考えていました。

まずは除草作業でインターンシップを行い、福祉事業所の支援員が利用者の個性や能力を見極めて適切に指導していると実感し、委託を決めました。現在は月に2回程



度、収穫した野菜の袋詰め作業を委託。“量る→詰める→シールを貼る”の作業を、支援員が適材適所に利用者を配置することでスムーズに作業が進んでいます。

ハウス20a・露地150aで、キャベツやブロッコリーなどの葉菜類や根菜類、枝豆などを栽培する榎本ファームは妻と両親の4人で運営。作業を委託することで家族の生活に時間的なゆとりが生まれ、今後は、枝豆の定植や収穫など、委託する作業内容や量をさらに増やしていく予定です。

### 作業上の工夫点や報酬について

委託したい作業ごとにインターンシップを実施。支援員との打合せを密に行うことで作業の理解度を深めてもらい、適切な指導に繋がっています。また、野菜をきれいに掃除し丈を揃えて袋詰めしやすい状態にしたり、袋詰め時の重量をどの野菜も200グラム前後に統一して障害者が計量しやすいような配慮をしています。

報酬は、70代の母親の1時間当たりの作業量を基準にして賃金を算出し、出来高払いとしています。



代表の榎本浩久さん夫妻と両親

(2023年2月取材)

ことぶき

# 寿ファーム

揖保郡太子町

委託先：就労継続支援B型事業所

主な作業内容  
白ネギの袋詰め



## 時間をかけたインターンシップで作業を見直し 委託することで余裕が生まれました

代表の万壽本佳明さんは脱サラして就農した30代の若手農業者。白ネギを中心とした野菜栽培や稲作など約1.5haを家族経営で行っています。大手企業勤務時代に人事課で障害者雇用に関わっていたこともあり、人手不足解消のために農福連携を考えました。

3日間かけたインターンシップでは、福祉事業所の利用者に白ネギの袋詰め作業などを依頼。どのように作業してもらうかは、利用者の性格や能力をよく知っている福祉事業所の支援員と話し合いながら一つ

つの作業を見直し、効率よく作業できる工夫を重ねました。その結果、万壽本さんは任せられることができると判断し、委託することになりました。

家族でこれまで半日かかっていた作業を委託することで余裕が生まれたほか、利用者は作業に夢中になって働くこともあり、どんどん仕事内容について質問してくれます。今後は種まきに挑戦するなど、違う作業もできるのではと前向きに考え、雇用も視野に入れています。



### 作業上の工夫点や報酬について

障害によっては数を数えるのが苦手なこともあるため、支援員の発想で牛乳パックを利用。箱に置くだけで数が分かるようになり、作業がスムーズに。発想の転換で難題が解決しました。

報酬はポイント制を導入。1ポイント=1円で、作業ごとに支援員と金額を決めていく方法をとっています。



代表の万壽本佳明(まんじゅもと・よしあき)さんと妻の絵理香(えりか)さん

(2023年2月取材)

## (株)ジェイエイファーム六甲 ゆめファーム兵庫六甲はぜたに

神戸市西区

委託先：就労継続支援A型・B型事業所

主な作業内容  
トマトの葉かき



### 重点目標の農福連携を実践し労働力を確保 委託する仕事のレベルアップを期待



JA兵庫六甲の子会社「ジェイエイファーム六甲」が運営する高度環境制御栽培施設「ゆめファーム兵庫六甲はぜたに」では、ハウス4棟(1.2ha)で大玉トマトの養液栽培を行っています。同社では特別支援学校の生徒を週2回授業の一環として受け入れている下地もあり、2022年度から農福連携の取組に着手しました。

まず、8カ所の福祉事業所の支援員向けに説明会を行い、次に利用者を伴ったインターンシップを実施。支援員と委託可能な作業を

抽出し、どのようなフォローが必要かなどを具体的に検討、最終的にA型とB型の2カ所の福祉事業所と委託契約を締結しました。

委託内容は、不要になった葉を取る葉かき作業と、摘み取った葉を集めて捨てる搬出作業。清潔なハウス内での作業だけに、利用者はいきいきと楽しそうな様子で取り組んでいて、思った以上の成果が。今後は、作業台車やはさみを追加して作業効率を高め、葉かきに加えて収穫作業も任せてみたいと、レベルアップに期待を寄せています。

#### 作業上の工夫点や報酬について

作業の進捗やマネージメントを担当する従業員は、「福祉事業所の支援員に作業内容を念入りに説明・指導して、分かってもらうことが大切」と話します。そうすることで、利用者への作業の指導から水分補給や休憩のタイミングまで、支援員に任せることができます。

報酬については、パート従業員が働いた場合の単価を基準として、1レーン当たりの報酬を算出。完了した作業内容に応じた出来高払いとしています。



(左から) JA兵庫六甲の拜郷隆志さん  
ジェイエイファーム六甲の  
片山勲さん、山本一之さん

(2023年2月取材)

## 農事組合法人みやまえ営農

加古川市

委託先：就労継続支援A型事業所

主な作業内容  
トウモロコシ補植、キャベツの選別・収穫、畑の除草



### 労働力確保のため農福連携を突破口に 今後の担い手となる期待を込めて賃金を決定



加古川市西神吉宮前地区において、継続的・安定的な農業経営を目指し設立された「農事組合法人みやまえ営農」。計84.1haで水稲や大麦、黒大豆、ヘアリーベッチや野菜類を栽培しています。農家の高齢化により深刻化する担い手不足を補うために、代表理事の佐伯眞究さんは「農福連携は労働力確保に有効な一手段」と着目。5年前から兵庫県・ひょうご農林機構主催の「農福連携研修会」に参加しています。

2022年4月に就労継続支援A型事業所と

業務委託契約を締結。委託したい作業ごとにインターンシップを利用したことで、トウモロコシの補植(植え付けの手直し)やキャベツ畑の除草作業など、利用者の能力を見極めつつ、実施可能な農作業の委託ができました。現在ではキャベツの収穫作業の委託もを行っています。

2月のキャベツ収穫祭では、日程の一部を障害者との交流の場として活用。車椅子でほ場に入ったり、キャベツの収穫体験を行うなど、参加者からも喜ばれています。

#### 作業上の工夫点や報酬について

キャベツの選別では刃物を使いますが、パート従業員とペアで行うことで、不安なく作業ができています。今後は従業員も農福連携研修会で利用者への対応を学ぶ機会を設けるなど、受け入れ側の態勢も整えていきます。

報酬については、現行のパート従業員と同じ仕事量や速さは求めないものの、兵庫県の最低賃金をキープして設定。「時間はかかるが、必ず農作業の戦力になってくれる」と、佐伯さんの「期待」が込められた賃金となっています。



代表理事の  
佐伯眞究  
(まさみ)さん

(2023年2月取材)

## (有)藤橋家姫路夢前農園

姫路市夢前町

委託先：就労継続支援B型事業所

主な作業内容  
果実の収穫・害虫駆除・清掃、電気柵の片付け



### 障害者の先入観を持たず、作業の効率化を一緒に考え 従業員と利用者がともに成長し合える関係に



採卵鶏農場で約20万羽の鶏を飼育、鶏糞を使った有機堆肥で飼料米などを育てる耕畜連携の循環型農業を推進する「藤橋家姫路夢前農園」。35haの規模で稲作を行うほか、2020年度から「パッションフルーツ」のハウス栽培事業がスタート。果汁を使ったりキュールなどを商品化しています。

事業領域が拡大するなか、人手が不足する農繁期のルーティン作業を担ってほしいと、2023年に農福連携を導入。まずは農薬不使用有機栽培のパッションフルーツ栽培で悩んでいたカイ

ガラムシの除去作業を兵庫セルフセンターに打診し、手を上げてくれた福祉事業所とインターンシップを行いました。葉に付いた小さな虫を丁寧に手作業で取り除く利用者の姿を見て、優秀な人材だと判断し、委託することになりました。作業工程の中でやりにくい場合があれば、指示する側と受ける側、お互いがどうしたら楽しく効率良くできるかを話し合い改善を重ねています。現在は、週2回のペースで清掃・片付けや苗箱洗浄、電気柵の撤去など多様な作業ができるようになり、同農園の貴重な担い手となっています。

#### 作業上の工夫点や報酬について

利用者一人ひとりに個性があり、それぞれに得意・苦手な作業があります。「この作業は無理かな」という思い込みをせず、とにかくやってみることで改善点がわかり、どんどん委託する内容が増えました。ハウスでは夏場の扇風機やトイレの設置など、作業環境にも配慮しています。電気柵の撤去など、作業に出来高などの制限をかけずにやってもらう考え方なので、報酬は作業ユニット（利用者3人+支援員1人で1ユニット）単位で時間給を設定しています。



農業事業部の芦田和香奈さんと部長の菅原武さん

(2024年2月取材)

## (株)アグリヘルシーファーム

丹波篠山市

委託先：就労継続支援B型事業所

主な作業内容  
丹波黒枝豆の枝切り、あぜの草刈り



### 適性を熟知した支援員と作業内容を見極め、 農福連携で社員が注力できる業務範囲を拡大



「アグリヘルシーファーム」は、丹波篠山でしか作れない農作物にこだわり、コシヒカリや特産の黒大豆など、作付面積約90haにおよぶ大規模農業法人です。中でも黒大豆の収穫作業では、9～10月の枝豆収穫から12月にかけて忙しさがピークに達するといいます。

社員に福祉事業所の勤務経験者がいることもあり、以前から農福連携に関心を持っていた代表取締役の原智宏さんは2021年10月、インターンシップを利用して丹波市でさまざまな就労支援事業を手掛ける福祉事業所と

タッグを組むことにしました。

「企業経営体としてお互いに発展していく」という方向性を共有。繁忙期の10月は黒枝豆の収穫や草刈りなど、ほぼ毎日約10名の利用者が気持ちのよい汗をかきながら頼りになる戦力になっています。同社では、都市部でスポーツ活動に参加する子どもたちに自社産米のできたておにぎりをキッチンカーで提供する新事業をスタート。事業領域の拡大に社員が注力できる環境を整えるためにも、農福連携は欠かせない存在です。

#### 作業上の工夫点や報酬について

インターンシップの作業体験を通じて、利用者の適性を熟知している支援員と相談しながら、できる範囲を見極めることが大切です。当社では刈払機を使った草刈りも行っています。

報酬は、収穫作業は時間給、草刈りは10a単位で設定しています。障害者というバイアスを外し、労働内容に応じて適正な賃金を払うという考え方に賛同する事業所と組めたのがよかったです。



(左から)代表取締役の原智宏さんと福祉事業所勤務経験がある藤本浩志さん

(2024年2月取材)

## 農福連携についてよくある質問

### Q1 農福連携に取り組んだ場合のメリットは？

A 農業者にとっては、人手不足の解消、作業負担軽減につながり、その時間を品質向上や販路開拓についやす等、農業経営に使うことが可能となります。また、福祉事業所からは、障害者の方が農作業をすることにより、いきいきとやりがいをもって取り組まれるようになり、必要な基礎就労能力が養われるといった声が寄せられています。

### Q2 障害者の方は農作業に慣れていません。作業を任せて大丈夫でしょうか？

A 障害の種類は身体、知的、精神と様々で、その程度や状態も人によって異なります。農作業の習得に時間がかかる方もおられますが、例えば、作業を切り分け、障害者の方の障害特性に応じて、その一部分を担っていただくことで実施する事例もあります。障害者に農作業を体験してもらうために、農業者が障害者を試行的に受け入れるインターンシップ事業があるので、どのような農作業を依頼したいか、まずは下記窓口までご連絡ください。

### Q3 障害者とのように接したらよいか不安です。

A 請負契約による受け入れの際には、福祉事業所の支援員が必ず同行します。農業者は支援員に作業説明・指示を行い、障害者へは支援員が諸々のコミュニケーションを行うので安心してください。

### Q4 農作業中に福祉事業所の利用者(障害者)がケガや病気になった場合の補償は？

A 基本的には福祉事業所側で作業にかかる保険をかけていますので、大丈夫です。そのような場合には救護などの適切な対応をお願いします。

### Q5 農作業委託を依頼するにはどうすればよいですか。費用はどれくらいかかりますか。

A 農作業を福祉事業所に依頼する場合、請負契約を締結していただくのが一般的です。現場には福祉事業所の職員が同行し、障害者への作業指導等を行います。作業の報酬については、就労訓練という特性を考慮しながら、農業者と福祉事業所の話合いで決定することが重要です。時間給や出来高で決定する事例が多くなっています。



### Q6 具体的に請負報酬はどのように算定したらよいでしょうか。

A 農業者と福祉事業所、双方の意見を合わせる必要がありますが、以下のような方法により設定することもできます。

報酬額＝健常者1人が同作業を行った場合にかかる時間×健常者の時給

①障害者が4人でこなせた場合、健常者の時給÷4人  
(一人当たりの時給)

②障害者が同作業に2倍の時間を要した場合、健常者の時給÷2時間(時給)

障害者を安い労働力として扱おうとする考え方は、世間から批判を招きます。とはいえ、健常者と同じ作業ペースを望むのは難しいため、作業を行った「量」に対して正当な評価を行える出来高制を採用することが望ましいです。あくまでも、経営上の、コストの一環として考えてください。

### Q7 作業所に特別な設備が必要ですか。また、寒さや暑さに特別な対策は必要でしょうか。

A 簡易トイレや休憩スペースの用意が必要です。近隣に農業者の自宅などがあり、それらに代えられる場合は、必ずしも特別に用意する必要はありません。ほ場の近くにコンビニがあれば、事前にトイレ使用の許可を頂いておく方法もあります。寒さや暑さ対策の要否は、受け入れる障害者の特性によって異なります。福祉事業所の職員と相談し、対策を検討します。

### Q8 請負契約による障害者の受入れにあたって、農業者が福祉事業所の利用者に対して支払う賃金や工賃に対する補助金等がありますか。

A 請負契約による障害者の受入れにあたって、補助金などはありません。障害者の農業分野への就労へと結びつけるため、農業者が福祉事業所の障害者をインターンシップとして試行的に受け入れた場合、農業者に対し、実施した訓練日数及び人数に応じて、1,000円/人・日の研修指導料を支払う制度があります。

### Q9 農福連携を支援する窓口は？

A 農業者サイドの窓口は、「公益社団法人ひょうご農林機構」になります。依頼したい農作業のことなど、まずはお気軽にご相談ください。多くの場合、農福連携担当者が福祉事業所サイドの窓口となる「NPO法人兵庫セルフセンター」の担当者とともに現地にお伺いします。障害者に行ってもらいたい農作業内容をお聞きしながら、一緒に、福祉事業所に依頼したい農作業としてまとめます。

